

ボランティア赴任前留意事項

- 青年海外協力隊（長期）
- 青年海外協力隊（短期）
- シニア海外ボランティア（長期）
- シニア海外ボランティア（短期）
- 日系社会青年ボランティア
- 日系社会シニア・ボランティア

※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合にはJICAは責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料はJICAボランティアを対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があることをご承知おきください。

目次

1. 携行荷物について

- (1) 赴任時に必ず持参するもの

2. 別送荷物について

- (1) アナカン・郵送等の利用、通関情報について

3. 通信状況について

- (1) パソコンの普及状況（現地で購入可能なPCの機種・価格、プロバイダ、E-mailの利用状況など）
- (2) 固定電話、携帯電話の普及状況

4. 現金の持ち込み等について

- (1) 現金持込にかかる注意
- (2) 両替状況
- (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

5. 治安状況について

6. 交通事情について

7. 医療事情について

8. 問合わせ先

1. 携行荷物について

(1) 赴任時に必ず持参するもの

- イランでは殆どの生活用品の購入が可能です。生活に必要な物は出来るだけイランで購入することをお勧めします。
- 常用している薬がある場合は持参してください。また総合感冒薬、解熱剤、胃腸薬、整腸剤、点眼薬、かゆみ止め軟膏などの家庭用常備薬も必要に応じ持参されることをお勧めします。

2. 別送荷物について

(1) アナカン・郵送等の利用、通関情報について

- 荷物引き取りには多大な時間と手数料を要すること、現地でほとんどのものの購入が可能であることから、荷物の別送はお勧めしません。

3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況（現地で購入可能なPCの機種・価格、プロバイダ、E-mailの利用状況など）

- パソコンはイランでも購入可能ですが、日本から持参するのが無難です。また、当地では、正規のソフトウェアの購入は困難です。
- インターネットはホテルでのWifiや携帯電話のデザリングで利用できますが、当局の規制により、反体制・反イスラム的网站、その他FacebookやTwitter等は閲覧できません。

(2) 固定電話、携帯電話の普及状況

- 固定電話、携帯電話は、ボランティアの派遣されている地域においては、いずれも問題なく利用可能です。
- 安全管理のために、ボランティアには携帯電話を貸与しています。

4. 現金の持ち込み等について

(1) 現金持込にかかる注意

- 現金の持ち込みについては、下記のリンクをご参照ください。
- <http://www.ir.emb-japan.go.jp/jp/consular/ryokou.html>
- https://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_zeikan.html

(2) 両替状況

- 現在両替が難しい状況です。両替については別添をご参照ください。（状況は随時変更しますが現在の状況を記載しています。）

(3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

- イランではトラベラーズチェックや海外で発行されたクレジットカードを使用することができず、また、イランへの海外送金は困難であるため、ボランティアは赴任時に必要な金額全額を現金で持参することが必要です。赴任前に支給される手当をUSドルもしくはユーロに換金して持参してください。
- 現地銀行口座開設には通常2か月程度の期間を要すること、外貨口座開設は困難であること、また、現地通貨口座へ入金した場合外貨への再両替は困難であることや為替リスクを踏まえ、外貨での保管が基本となります。

5. 治安状況について

(1) 主な脅威

- イランの治安状況は、イラクやアフガニスタン、パキスタンとの国境付近を除き、首都テヘランを含め、治安状況は概ね平穏に推移していますが、以下の脅威が存在します。

①一般犯罪：

- すり、ひったくり、偽装警官による強盗等が発生しています。

②交通事故：

- 死亡事故を含む交通事故が多発しているとみられます。

③テロ：

- 2017年6月7日、テヘラン市内の国会事務所建物内及び同市近郊のイマーム・ホメイニ廟周辺において、複数の武装グループによる銃撃や自爆攻撃によりイラン人18人が死亡、約50人が負傷するテロ事件が発生（ISILが犯行声明を発出）しています。
- ISILについては、同組織はシーア派国家であるイランに対する明確な敵対意思を依然として有しており、2017年中には上記テヘランでのテロ事件のほか、国境地域等において国内でのテロを企図していた関係者が逮捕・殺害される事案が複数確認されています。イラン国内の目標への攻撃を行う可能性が排除されない状況にあります。
- 2017年7月12日、ホセイン・アシュタリ警察長官は、イランの国境地域の治安は、警察を始めとする治安機関の監視活動により良好に保たれていると述べたほか、同年7月24日にはアラヴィ情報大臣が、イランの治安・情報機関が過去4年間で同国内において120以上のテロ計画を阻止してきたことを明らかにし、当該テロ攻撃を企図したテロリスト全てが殺害又は逮捕されたと述べています。また、治安・情報機関はイランの治安を完全にコントロール下に置いており、イラン国外からのいかなる侵略にも即座に対応する用意があることを強調しています。

(2) 安全対策

- 一般犯罪（すり、ひったくり等）及び交通事故に注意するとともに、海外安全情報、報道等により最新の治安・テロ情勢等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持ち、テロの発生可能性の高い場所を極力避ける等、安全対策を講じることが必要です。

6. 交通事情について

- 国内の交通インフラは比較的整っています。各主要都市に空港があり、鉄道や道路網も整備されています。
- バス、タクシー、鉄道等に利用の制約はありません。ただし、航空機の利用には一部制約があります。
- テヘランでは連日市内の各所で激しい渋滞が発生しています。

7. 医療事情について

- 医療レベルは高く、国内で一定の治療は可能です。傷病の場合には、国際基準を満たす派遣地市内の総合病院（例：ラシュト Ghaem International Hospital。（私立病院。一般外来、救急外来とも24時間対応可能）で早期に受診することを基本とします。
- マラリアやデング熱など特に重大な風土病は都市圏にはありません。
- 救急車を呼ぶ電話番号は「115」です。

8. 問合わせ先

- 任国での活動に関する質問は、以下の事務所アドレス宛にメールでお問い合わせください。

※活動に関わる内容以外の質問はお控えください。

事務所アドレス：ia_oso_rep@jica.go.jp